



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	札幌市近郊のイチヨウウキゴケ産地
Author(s)	持田, 誠; 山崎, 真実; 内田, 暁友
Citation	水草研究会会報, 76, 40-42
Issue Date	2002-11
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/39272
Type	journal article
File Information	mochida_2002.pdf



札幌市近郊のイチョウウキゴケ産地

持田 誠*・山崎 真実**・内田 暁友***

*Makoto Mochida, **Mami Yamazaki and ***Akitomo Uchida: The habitats of *Ricciocarpos natans* (L.) Corda in the suburbs of Sapporo City

Abstract

Ricciocarpos natans (L.) Corda was recorded at rice field of Sapporo and Ebetsu City, in Hokkaido. It is the first record of the distribution from Ishikari area.

イチョウウキゴケ *Ricciocarpos natans* (L.) Corda は世界各地に分布するウキゴケ科イチョウウキゴケ属の浮遊植物(コケ植物, タイ類)である。汎世界的に分布し、かつては日本各地の沼や

池, 水田で普通に見られる水生植物であったが(岩月, 2001), 農薬の発達や水質汚濁などにより激減し, 現在はレッドデータブックの絶滅危惧I類に指定されている(環境庁, 2000)。しかし現在の分布状況については維管束植物の水草にもまして過去から現在に至る記録が少なく, 実態は不明である。北海道の水田は開発の当初から機械化と大規模化が精力的に進められてきたため, 減少傾向が著しいものと推察される。

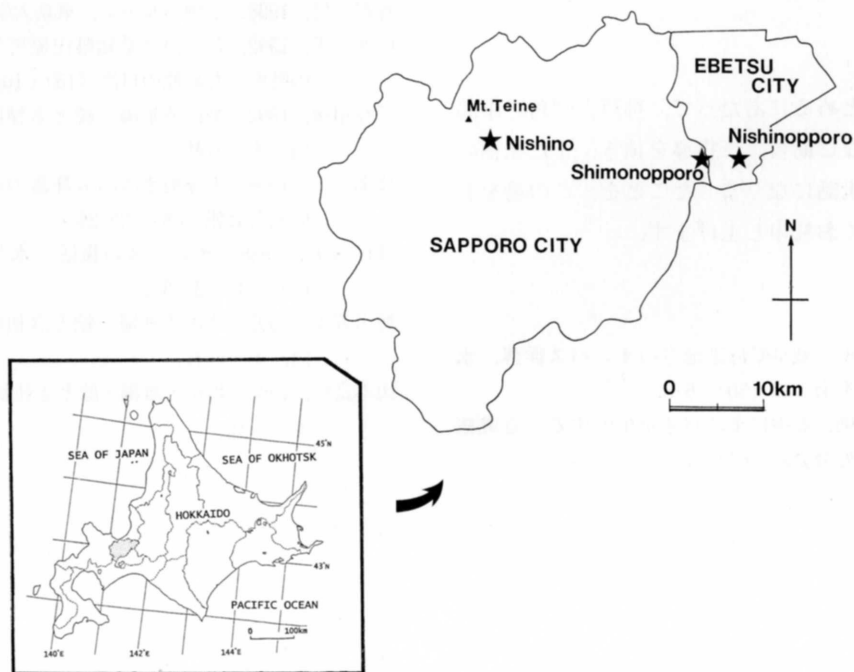


図1. 今回イチョウウキゴケが確認された水田

*北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園; **札幌市博物館活動センター; ***斜里町立知床博物館

著者らは札幌市2カ所および江別市1カ所でイチョウウキゴケを確認したので、産地と標本について報告する(図1)。

産地の1カ所は札幌市西区の琴似発寒川に沿った小規模な棚田である。2002年8月30日、水田は水を落として数日たっていたが、その後数日続いた雨による増水のために“冠水”しており、アオウキクサに混ざって浮遊する、胞子囊を付けた多数のイチョウウキゴケが認められた(図2)。田内およびその隣の休耕田では他にもヘラオモダカやミズハコベなど数種の水生維管束植物がみられた。耕作者の木下正太郎氏によればここでは除草剤は使われておらず、また琴似発寒川から直接取水しているため、水温は低く安定している。それらによってこの水田では比較的豊かな植物相が保たれていると推察される。

また、この水田では1999年11月、すでに収穫を



図2. 浮遊するイチョウウキゴケ(札幌市西区, 2002年8月)



図3. 泥土上で紅葉していたイチョウウキゴケの葉状体(札幌市西区, 1999年11月)

終えた湿った泥上で紅葉した本種の葉状体を確認している(図3)。井上(1969)は本種の本州の生育時期は春から秋(5-9月頃と、ほぼ水田に水がある時期に対応)であり、九州南部では10月までみられるとしており、すでに冬期である11月の北海道での本種の確認は特殊な例と考えられる。このまま葉状体を保って越冬するのかなど、道内における本種のフェノロジーについて検討が必要であると思われる。なお、これらの11月にみられた個体は乾燥標本ではどれも葉状体の幅が4mmに満たない大変小さなものであった。本種は泥上などの比較的乾燥した条件では小型化する場合があるとされており(Paton, 1999)、本個体群が8月の水落し後に泥上で小型化し、11月まで生育していたことが推察される。

一方、札幌市東方の野幌国有林周辺の2カ所で2002年6月に本種の生育を確認した。野幌国有林は北海道立自然公園に指定されている、都市近郊林としては有数の規模を誇る針広混交林であり、森林を取り囲むように農地が隣接している。かつては水田が中心で、林内には灌漑用のため池が点在していたが、今日では周辺の水田も減少傾向にある。その残り少ない水田からイチョウウキゴケが確認された。

1カ所は、森林公園の「瑞穂の池」から流出する沢沿いの水田で札幌市厚別区下野幌に位置する。既に出穂が見られる田内の水面に、アオウキクサ

に混ざって比較的多数のイチヨウウキゴケが浮遊していた。この水田では畦にのみ除草剤を使用しているが、水田内は殺菌剤のみを散布している。ミズハコベ、ヒロハノイヌノヒゲ、アゼナ等数種類の維管束植物が見られ、比較的多様な植物相を保っているものと推察される。

もう1カ所は森林を挟んで正反対の方角に当たる江別市西野幌の水田である。アオウキクサが圧倒的に優占しているが、その中で個体数は少ないながらもイチヨウウキゴケが浮遊していた。この水田からは輪藻類のシャジクモが多く見られた。この辺りから隣接する南幌町にかけては、数年前までは大規模な水田地帯だったが、近年は秋播きコムギを主体とする畑作物に転換される傾向にあり、残存する水田の面積も年々減少傾向にある。

北海道におけるイチヨウウキゴケの記録は、田中・岩垂(1931)が渡島・上川両地方の水田雑草を報告した際に「リシオカルプス sp.」としたものが最初と考えられている(土井・森田, 1978)。その後、笠原(1951)は全国の水田雑草の分布をまとめ、この中でイチヨウモ(=イチヨウウキゴケ)について、北海道は「分布するも発生の度の調査脱落のもの」として記載している。

石狩低地帯(札幌を含む)から空知地方中北部にかけては、これまで本種の標本を伴う確実な記録が無かった。今回札幌および江別で新たに分布が確認されたことにより、今後は北海道全域の水田地帯で早急な分布調査が必要であると考えられる。

本種の採集にあたり、耕作中の水田への立ち入りを快く許可頂いた札幌市西区西野の木下氏、札幌市厚別区下野幌の谷村氏、江別市西野幌の横山氏はじめ農家の御家族皆様にお礼申し上げる。

なお、採集標本は、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園標本庫(SAP)及び札幌市博物館活動センター標本庫(SMAC)に収蔵した他、生標本が北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園において栽培されている。

採集標本: イチヨウウキゴケ *Ricciocarpos natans* (L.) Corda; () 内は収蔵庫を示す。

札幌市西区西野幌の滝入口(水を落とした水田の泥土上のもの) Nov. 6, 1999. 内田 暁友 A. Uchida 1117, 1424. (SAP); (水面浮遊のもの) Aug. 30, 2002. 山崎 真実 m0236-1. (SMAC), 持田 誠 MOCHIDA 000703. (SAP);

札幌市厚別区下野幌、野幌森林公園瑞穂の池流出沢沿い水田(湛水中浮遊のもの), July 22, 2002. 山崎 真実ほか APN02-14. (SMAC) (SAP);

江別市西野幌下学田、道道江別恵庭線沿い水田(湛水中浮遊のもの), July 26, 2002. 持田 誠 APN02-20. (SAP)

引用文献

- 井上 浩, 1969. こけ—その特徴と見分け方—. 北隆館, 東京.
- 岩月善之助(編), 2001. 日本の野生植物コケ. 平凡社, 東京.
- 環境庁, 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 9 植物Ⅱ. 財団法人自然環境研究センター, 東京.
- 笠原 安夫, 1951. 本邦水田雑草の地理的分布について. 日本作物学会紀事 20: 193-198.
- 土井 康生・森田 弘彦, 1978. 北海道における主要水田雑草の変遷. 北海道農業試験場研究資料 14: 1-15.
- 田中 一郎・岩垂 悟, 1931. 北海道に於ける水田雑草. 北海道農事試験場彙報 51: 1-117.
- Paton, J. A., 1999. The liverwort flora of the British Isles. Harley Books, Essex.